

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月6日

【四半期会計期間】 第92期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 リケンテクノス株式会社

【英訳名】 RIKEN TECHNOS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 常盤 和明

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地

【電話番号】 東京 03(5297)1650(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高見 亮一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地

【電話番号】 東京 03(5297)1650(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高見 亮一

【縦覧に供する場所】 リケンテクノス株式会社大阪支店
(大阪市北区堂島一丁目5番30号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第91期 第2四半期 連結累計期間	第92期 第2四半期 連結累計期間	第91期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	49,541,346	40,589,512	98,808,671
経常利益 (千円)	2,770,911	1,737,558	5,670,415
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,432,888	811,906	3,064,349
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,096,435	1,329,922	4,282,833
純資産額 (千円)	56,771,161	57,806,708	57,586,816
総資産額 (千円)	94,102,787	88,465,037	91,868,881
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	22.15	12.87	48.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	21.58	-	-
自己資本比率 (%)	52.4	57.0	54.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	4,185,452	4,311,039	8,805,427
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	703,804	1,942,790	2,525,296
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,564,360	1,566,036	5,480,159
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	17,925,323	18,416,844	17,812,026

回次	第91期 第2四半期 連結会計期間	第92期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.98	7.33

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 当社は株式報酬制度「株式給付信託(BBT=Board Benefit Trust)」及び従業員株式所有制度「株式給付信託(従業員持株会処分型)」を導入しております。当該制度の導入に伴い、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数は、日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式の数を控除しております。
- 4 第91期及び第92期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況ですが、感染拡大防止と経済活動再開の両立を進める中、輸出や生産、個人消費などを中心に緩やかに持ち直しました。

海外では、新型コロナウイルス感染症の影響により、4-6月期の米国経済・欧州経済は共に大きく落ち込みましたが、中国では実質経済成長率がプラスに復帰しました。

産業別では、国内の建材業界では住宅着工件数は弱い動きとなっておりますが、自動車業界や家電業界は持ち直しの動きが見られました。

このような環境の中、当社グループはグローバルな視点で市場別に顧客のニーズをきめ細かく確実に捉え、国内および海外の経営資源を効率的に活用して受注につなげることで業績の向上に努めました。

その結果、売上高は40,589百万円(前年同四半期連結累計期間比(以下「前年同期比」)18.1%減)、営業利益は1,672百万円(前年同期比39.2%減)、経常利益は1,737百万円(前年同期比37.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は811百万円(前年同期比43.3%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、各報告セグメントの名称、略称、対象とする主要な市場は、以下のとおりであります。

- ・トランスポーターション(Transportation)[TR]... 自動車、鉄道、船舶市場等
- ・デイリーライフ&ヘルスケア(Daily Life & Healthcare)[DH]... 医療、生活資材、食品包材市場等
- ・エレクトロニクス(Electronics)[EL]... エネルギー、情報通信、IT機器市場等
- ・ビルディング&コンストラクション(Building & Construction)[BC]... 住宅、ビル、建築資材、土木市場等

(注)[]は、報告セグメントの略称

<トランスポーターション>

国内では、自動車市場へのエラストマーコンパウンドの販売が、新型コロナウイルス感染症の影響から後半回復基調に推移したものの、前年の水準には至らず減収となりました。

海外では、中国におけるコンパウンドの販売は新型コロナウイルス感染症の影響から回復しましたが、北米・ASEAN・インドでは4月以降需要が低迷し、全体として減収となりました。

セグメント利益につきましては市況の影響による販売の低迷で、国内・海外共に減益となりました。

その結果、売上高は10,461百万円(前年同期比30.0%減)、セグメント利益は874百万円(前年同期比37.5%減)となりました。

<デイリーライフ&ヘルスケア>

国内では、抗ウイルスフィルムのリケガードおよび食品包材市場の業務用ラップの拡販が進みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により生活資材市場のメディア・サイン分野向けフィルムの販売が減少し、全体として減収となりました。

海外では、米国での生活資材市場向け塩ビコンパウンドの販売は減少しましたが、ASEAN諸国での医療市場向け販売が堅調に推移し、全体として増収となりました。

セグメント利益につきましては、医療市場および国内食品包材市場で販売が増加したことにより増益となりました。

その結果、売上高は11,689百万円(前年同期比0.5%増)、セグメント利益は1,133百万円(前年同期比55.8%増)となりました。

<エレクトロニクス>

国内では、抗ウイルスフィルムのリケガードの拡販が進みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、エネルギー市場の塩ビコンパウンドおよび光学分野の大型ガラス代替フィルムの売上が前年を下回り、全体として減収となりました。

海外では、タイ国およびベトナム国での販売は増加したものの、インドネシア国におけるエネルギー市場向け塩ビコンパウンドの販売が低迷し、減収となりました。

セグメント利益につきましては、全体の販売数量減少により減益となりました。

その結果、売上高は8,332百万円(前年同期比22.6%減)、セグメント損失は31百万円(前年同期は331百万円の利益)となりました。

<ビルディング&コンストラクション>

国内では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた住宅市場低迷によるコンパウンド・フィルムの販売減少および非住宅市場における販売減少により、減収となりました。

海外でも、コンパウンド・フィルムともに販売が低迷し、減収となりました。

セグメント利益につきましては、国内外の販売低迷により、減益となりました。

その結果、売上高は9,917百万円(前年同期比16.8%減)、セグメント損失は335百万円(前年同期は279百万円の利益)となりました。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は88,465百万円(前連結会計年度末比3,403百万円減少)となりました。これは主に受取手形及び売掛金が減少したこと等によります。

負債合計は30,658百万円(前連結会計年度末比3,623百万円減少)となりました。これは主に支払手形及び買掛金が減少したこと等によります。

純資産(非支配株主持分を含む)は57,806百万円(前連結会計年度末比219百万円増加)となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が増加したこと等によります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、営業活動により増加した資金は4,311百万円(前年同四半期連結累計期間(以下「前年同期」)は4,185百万円の増加)、投資活動により減少した資金は1,942百万円(前年同期は703百万円の減少)、財務活動により減少した資金は1,566百万円(前年同期は2,564百万円の減少)等により604百万円増加し、18,416百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は、前年同期に比べ125百万円増加し、4,311百万円でした。その主な内容は、売上債権の減少5,034百万円、税金等調整前四半期純利益1,741百万円、減価償却費1,791百万円等による資金の増加および仕入債務の減少3,753百万円等による資金の減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は、前年同期に比べ1,238百万円増加し、1,942百万円でした。その主な内容は、有形固定資産の取得による支出1,106百万円、無形固定資産の取得による支出838百万円、投資有価証券の売却による収入21百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は1,566百万円(前年同期は2,564百万円の減少)でした。その主な内容は、長期借入金の返済による支出334百万円や配当金の支払額(非支配株主への配当を含む)1,189百万円等による資金の減少であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。依然不透明な経済環境のもと、引続き効率的な生産体制の構築と固定費の削減等、収益確保に向け継続して取り組んでまいります。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、671百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	236,000,000
計	236,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年11月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	64,113,819	64,113,819	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	64,113,819	64,113,819		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年8月17日(注)	2,000	64,113		8,514,018		6,532,977

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	4,224	6.62
信越化学工業株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6番1号	3,300	5.17
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	2,907	4.55
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2丁目2番1号	2,907	4.55
損害保険ジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	2,500	3.92
丸紅株式会社	東京都中央区日本橋2丁目7番1号	2,363	3.70
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番1号	2,280	3.57
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2番1号	2,101	3.29
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	1,995	3.13
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人:香港上海銀行東京支 店 カストディ業務部)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD- HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	1,950	3.05
計		26,530	41.55

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 905,500	6,388	
完全議決権株式(その他)	普通株式 63,165,300	631,653	
単元未満株式	普通株式 43,019		
発行済株式総数	64,113,819		
総株主の議決権		638,041	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数(個)」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式8株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) リケンテクノス株式会社	東京都千代田区神田淡路町 2丁目101番地	266,700	638,800	905,500	1.41
計		266,700	638,800	905,500	1.41

(注) 当社は、2016年8月29日開催の取締役会において、「株式給付信託(BBT)」の導入を決議しており、2016年9月14日付で自己株式476,100株、2020年3月12日付で自己株式329,500株を信託E口へ譲渡しております。また、2017年5月24日開催の取締役会において、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」の再導入を決議しており、2017年6月12日付で自己株式250,000株を信託E口へ譲渡しております。
なお、2020年9月30日現在において信託E口が所有する当社株式638,800株は自己株式に含めて記載していません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,342,206	18,954,004
受取手形及び売掛金	24,398,163	19,192,314
商品及び製品	6,474,606	6,445,151
仕掛品	788,560	756,376
原材料及び貯蔵品	4,720,146	5,225,294
その他	1,168,234	1,028,478
貸倒引当金	84,898	83,731
流動資産合計	55,807,020	51,517,887
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,106,727	10,348,161
機械装置及び運搬具(純額)	9,457,101	9,017,747
土地	6,354,579	6,311,874
リース資産(純額)	26,913	21,105
建設仮勘定	287,737	213,397
その他(純額)	669,943	644,461
有形固定資産合計	26,903,003	26,556,747
無形固定資産		
のれん	743,518	642,791
リース資産	5,251	4,085
その他	1,266,508	1,886,678
無形固定資産合計	2,015,278	2,533,555
投資その他の資産		
投資有価証券	5,182,750	6,070,038
長期貸付金	44,218	30,917
退職給付に係る資産	512,807	521,631
繰延税金資産	508,798	368,916
その他	898,773	869,113
貸倒引当金	3,770	3,770
投資その他の資産合計	7,143,578	7,856,846
固定資産合計	36,061,860	36,947,149
資産合計	91,868,881	88,465,037

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,479,773	12,603,750
短期借入金	2 7,324,167	2 7,198,990
1年内返済予定の長期借入金	614,308	582,206
リース債務	15,252	13,276
未払法人税等	423,546	532,655
賞与引当金	596,165	518,058
役員賞与引当金	72,077	34,333
その他	2,387,202	3,071,961
流動負債合計	27,912,493	24,555,233
固定負債		
長期借入金	3,458,857	3,098,608
リース債務	18,528	13,189
繰延税金負債	1,042,985	1,260,926
役員退職慰労引当金	86,841	-
役員株式給付引当金	178,922	120,255
退職給付に係る負債	1,134,958	1,144,750
資産除去債務	327,678	330,032
その他	120,798	135,331
固定負債合計	6,369,571	6,103,095
負債合計	34,282,064	30,658,328
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,514,018	8,514,018
資本剰余金	7,373,812	6,597,580
利益剰余金	33,252,502	33,395,630
自己株式	1,444,377	420,227
株主資本合計	47,695,956	48,087,001
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,170,858	2,806,332
為替換算調整勘定	218,900	132,103
退職給付に係る調整累計額	375,387	322,682
その他の包括利益累計額合計	2,014,371	2,351,546
非支配株主持分	7,876,489	7,368,160
純資産合計	57,586,816	57,806,708
負債純資産合計	91,868,881	88,465,037

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	49,541,346	40,589,512
売上原価	40,673,579	33,346,893
売上総利益	8,867,766	7,242,619
販売費及び一般管理費	1 6,114,550	1 5,569,844
営業利益	2,753,216	1,672,774
営業外収益		
受取利息	24,858	12,819
受取配当金	84,975	95,952
その他	99,643	121,225
営業外収益合計	209,476	229,997
営業外費用		
支払利息	120,998	78,435
為替差損	34,071	51,512
その他	36,712	35,265
営業外費用合計	191,782	165,213
経常利益	2,770,911	1,737,558
特別利益		
固定資産売却益	1,994	3,944
投資有価証券売却益	56,779	6,657
特別利益合計	58,774	10,601
特別損失		
固定資産売却損	2,313	760
固定資産除却損	8,016	5,875
その他	1,000	-
特別損失合計	11,330	6,635
税金等調整前四半期純利益	2,818,355	1,741,524
法人税等	812,096	500,068
四半期純利益	2,006,258	1,241,455
非支配株主に帰属する四半期純利益	573,369	429,548
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,432,888	811,906

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
四半期純利益	2,006,258	1,241,455
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	167,068	635,113
為替換算調整勘定	124,075	599,352
退職給付に係る調整額	47,184	52,705
その他の包括利益合計	90,177	88,466
四半期包括利益	2,096,435	1,329,922
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,523,182	1,149,082
非支配株主に係る四半期包括利益	573,253	180,839

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,818,355	1,741,524
減価償却費	1,817,877	1,791,578
のれん償却額	89,308	100,727
賞与引当金の増減額(は減少)	10,403	77,993
役員賞与引当金の増減額(は減少)	57,130	37,744
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,526	338
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	86,384	57,396
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	540	6,710
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	19,712	86,841
受取利息及び受取配当金	109,833	108,771
支払利息	120,998	78,435
投資有価証券売却損益(は益)	56,779	6,657
有形固定資産売却損益(は益)	318	3,183
有形固定資産除却損	8,016	5,875
売上債権の増減額(は増加)	1,643,867	5,034,683
たな卸資産の増減額(は増加)	372,745	589,948
仕入債務の増減額(は減少)	926,544	3,753,154
未払消費税等の増減額(は減少)	92,878	21,972
その他	135,982	491,065
小計	5,094,902	4,607,971
利息及び配当金の受取額	110,639	111,742
利息の支払額	122,543	78,530
法人税等の支払額	897,546	330,143
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,185,452	4,311,039
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	25,282	25,083
定期預金の払戻による収入	18,077	18,078
有形固定資産の取得による支出	985,370	1,106,009
有形固定資産の売却による収入	2,271	5,244
無形固定資産の取得による支出	69,899	838,179
投資有価証券の取得による支出	951	351
投資有価証券の売却による収入	97,040	21,945
貸付けによる支出	-	1,500
貸付金の回収による収入	2,472	13,508
差入保証金の回収による収入	148,229	-
その他	109,608	30,441
投資活動によるキャッシュ・フロー	703,804	1,942,790

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	355,039	70,785
長期借入金の返済による支出	387,117	334,597
リース債務の返済による支出	8,423	7,314
自己株式の売却による収入	19,360	36,597
自己株式の取得による支出	644,521	8
配当金の支払額	518,597	503,001
非支配株主への配当金の支払額	670,021	686,927
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,564,360	1,566,036
現金及び現金同等物に係る換算差額	28,079	197,395
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	889,208	604,817
現金及び現金同等物の期首残高	17,036,114	17,812,026
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 17,925,323	1 18,416,844

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

(1) 株式給付信託(BBT)

当社は、2016年6月24日開催の第87回定時株主総会決議に基づき、業務執行をする取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び執行役員が、中長期的な業績の向上及び企業価値の増大に貢献する意識を高め、業務執行をしない取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び監査等委員である取締役が、監督または監査を通じた中長期的な企業価値の増大に貢献することを目的として、新たな株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」を2016年9月14日より導入しております。

取引の概要

当社グループは、あらかじめ定めた役員株式給付規程に基づき、取締役等(取締役及び執行役員)に対しポイントを付与し、退任時に受益者要件を満たした者に対し、付与されたポイントに相当する当社株式を給付いたします。給付する株式については、あらかじめ当社が拠出した金銭により信託銀行が将来給付分も含めて第三者割当による自己株式を譲受し、信託財産として分別管理しております。

信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は前連結会計年度末345,779千円、752千株、当第2四半期連結会計期間末282,476千円、614千株であります。

総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

(2) 株式給付信託(従業員持株会処分型)

当社は、2017年5月24日開催の取締役会の決議により、従業員の福利厚生増進及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

取引の概要

本制度は、「リケンテクノス従業員投資会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元するインセンティブ・プランです。

信託の設定後5年間にわたり持株会が取得する見込みの当社の当社株式を、本制度の受託者である信託銀行が予め一括して取得し、持株会の株式取得に際して当社株式を売却していきます。信託終了時までに、信託銀行が持株会への売却を通じて本信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、それを残余財産として受益者適格要件を充足する当社従業員持株会会員に分配します。また当社は、信託銀行が当社株式を取得するための借入に対し保証をしているため、信託終了時において、当社株価の下落により当該株式売却損相当の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。

信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は前連結会計年度末39,600千円、72千株、当第2四半期連結会計期間末13,145千円、23千株であります。

総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

当第2四半期連結会計期間末26,421千円

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	1,041千円	-千円

2 当座貸越契約及び借入未実行残高

提出会社及び国内連結子会社は、設備資金の効率的な調達を行なうため取引銀行との間に当座貸越契約を締結しております。

借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
当座貸越極度額の総額	12,180,000千円	12,180,000千円
借入実行残高	4,635,000	4,915,000
差引額	7,545,000	7,265,000

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
支払運賃	1,503,401千円	1,322,539千円
給料及び賞与	1,177,816	1,221,540
賞与引当金繰入額	152,432	115,325
役員賞与引当金繰入額	45,877	31,622
退職給付費用	126,250	102,901
役員株式給付引当金繰入額	30,751	13,413
貸倒引当金繰入額	7,471	338
研究開発費	559,468	514,586

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	18,446,739千円	18,954,004千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	521,416	537,160
現金及び現金同等物	17,925,323	18,416,844

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	519,756	8	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

(注) 配当金総額には、信託E口に対する配当金4,902千円を含めておりません。これは、信託E口が所有する当社株式を自己株式と認識しているためであります。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月31日 取締役会	普通株式	509,998	8	2019年9月30日	2019年11月28日	利益剰余金

(注) 配当金総額には、信託E口に対する配当金4,264千円を含めておりません。これは、信託E口が所有する当社株式を自己株式と認識しているためであります。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月19日 定時株主総会	普通株式	504,179	8	2020年3月31日	2020年6月22日	利益剰余金

(注) 配当金総額には、信託E口に対する配当金6,597千円を含めておりません。これは、信託E口が所有する当社株式を自己株式と認識しているためであります。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月30日 取締役会	普通株式	252,833	4	2020年9月30日	2020年12月2日	利益剰余金

(注) 配当金総額には、信託E口に対する配当金2,555千円を含めておりません。これは、信託E口が所有する当社株式を自己株式と認識しているためであります。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2020年7月31日開催の取締役会決議に基づき、2020年8月17日付で、自己株式2,000千株の消却を実施しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金775,028千円、利益剰余金159,371千円及び自己株式934,400千円がそれぞれ減少し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金6,597,580千円、利益剰余金が33,395,630千円、自己株式が420,227千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	TR	DH	EL	BC	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	14,941,108	11,632,740	10,769,180	11,913,359	49,256,387	284,958	49,541,346	-	49,541,346
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	27	-	27	307,922	307,950	307,950	-
計	14,941,108	11,632,740	10,769,208	11,913,359	49,256,415	592,881	49,849,296	307,950	49,541,346
セグメント利益又は セグメント損失()	1,398,538	727,658	331,356	279,631	2,737,184	1,991	2,739,175	14,040	2,753,216

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原材料の仕入・販売等でありませ

す。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去14,040千円であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	TR	DH	EL	BC	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	10,461,906	11,689,020	8,332,203	9,917,714	40,400,844	188,667	40,589,512	-	40,589,512
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	995	-	-	-	995	106,750	107,746	107,746	-
計	10,462,902	11,689,020	8,332,203	9,917,714	40,401,840	295,418	40,697,259	107,746	40,589,512
セグメント利益又は セグメント損失()	874,616	1,133,480	31,433	335,424	1,641,239	8,230	1,633,008	39,765	1,672,774

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原材料の仕入・販売等でありませ

す。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去39,765千円であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	22円15銭	12円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,432,888	811,906
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	1,432,888	811,906
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,684	63,105
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	21円58銭	- 銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	1,705	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 信託E口が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式と認識しているため、1株当たり四半期純利益金額の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数は、当該株式の数を控除しております。
2. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2020年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....252,833千円

(ロ) 1株当たりの金額.....4円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年12月2日

(注1) 2020年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

(注2) 配当金総額には、信託E口に対する配当金2,555千円を含めておりません。これは、信託E口が所有する当社株式を自己株式と認識しているためであります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月6日

リケンテクノス株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 元 清 二

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉 本 義 浩

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているリケンテクノス株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、リケンテクノス株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前題に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前題に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。